



## 国労九州本部第37回定期大会

八月三十一日サンメッセ鳥栖において国労九州本部第三七回定期大会を開催しました。新型コロナウイルスが蔓延し一三都道府県で緊急事態宣言が出されていましたが、密にならないように感染対策をしっかりと取りながら開催を行いました。大会前段には、労働講座を開催して税金問題など学習しました。また大会には本部松川委員長より情勢報告を受けました。

### 委員長挨拶



#### ①組織・強化拡大について

新型コロナウイルス感染拡大により行動が制限されている中で九州本部としては、最低限のことは出来てきたのではないかと考える。西日本青年部との合同学習会や入社式行動、第14回組織拡大経験交流会に参加してきた。緊急事態宣言が延長されて先が見えない状況であるが、このまま指をくわえて待つことはできない。嘱託組合員の増により運動が停滞しているが国労にとつて頑張りどころである。みんな考えて運動を考えていく必要がある。青年部の若い力活用やHPを活用して奮闘して欲しい。

#### ②JR九州豪雨災害について

八月一二日から続いた大雨の影響で15線区128件の被害、運休六千二百本、久大本線では橋梁の線路が変形するなど甚大な被害が出ている。また佐世保線では北方く大町駅の広範囲で浸水被害が出ている。北方に留置していた特急みどり号が水没するなどの被害が出ている。この付近は、以前より浸水の恐れがあると言われてきたのに何故ここで列車を留置したのか問題が残る。大会での発言から問題などを指摘し今後の交渉に

活かしてもらいたい。  
③安全安定輸送の確立と労働条件改善について  
コロナ禍で、飲食店の営業自粛などで人流が止まりその影響でJR九州も昨年度、赤字決算となった。期末手当や夏期手当も超低額回答となった。社員はエッセンシャルワーカーとして感染に怯えながらも仕事を行ってきた。この間会社は業績が良い時でも賃上げはせず内部留保を積み上げてきた。今こそ内部留保を活用し社員にも投資を行うべきである。

#### 労働条件改善では、緊急呼び出し手当の増額や健康診断、ストレッチを労働時間とする見直しを行った。今年も46項目を申し立てているので交渉の強化を図っていききたい。会社は今後も経費削減のため、駅の委託化、窓口体制の見直しなど固定費の削減など予想されるので注視していく必要がある。

#### ④政治闘争の強化について

菅政権が発足したが、安部前政権を踏襲しただけで内容は変わっていない。コロナ対策一つをとっても失政が続き、感染は連日二万人を超える感染爆発が起きていく。支持率も30%程度と低迷している。また最近の補欠選挙、知事選挙、横浜市長選挙で野党共闘が進み勝利・前進している。立憲主義・民主主義を取り戻すため、選挙闘争に全力を挙げなくてはな

## 大会発言

らない。以上4点を述べて九州本部を代表しての挨拶としたい。

八月の豪雨災害の対応について。警戒レベル4と5が出されてきた。長崎本線では雨量計が鳴動したが、線路点検を終了する前に運転を再開して途中で、カモメ31・33・35号が抑止となった。乗車人員を聞いてきたため37名が乗車していると伝えたら、指令はそんなにいるのかと驚き、バス手配は避難勧告出て3時間程かかると返答があった。命を守る行動をと言われてきたのに、こうした運転再開には疑問が残る。また北方ではみどり号4両が浸水したが、ここは元々から水害被害が発生しやすい場所である。何故こうした事態になったのか交渉を行い明らかにすべきだ。また災害時の出勤についても問題がある。交通手段がないにも関わらず出勤せよと言っていた管理者がいる。災害時には職務乗車証で特急や新幹線を利用できるように許可すべきである。



博多 萩原代議員